

## 『 剣道のすばらしさ 』

兵庫県

照道館樋ノ口少年剣道会

中学3年 辰 己 愛 和

「遅れないように、さっさと剣道行きや

学校から帰るや否や、働いている母からの電話コールが鳴り渡る。心でわかっているのに先に言われると「もう、わかってるわ」と静かに反論している私の剣道との時間が始まる。小学五年生の夏、私は剣道と出会った。剣道について歴史を少し調べてみよう。太平洋戦争後、大日本武徳会が解散し、その後発足した全日本剣道連盟が事業を継承している。剣道具を着用し竹刀を用いて一対一で打突しあう種目、稽古を続けることにより心身を鍛練し人間形成を目指す武道である、としている。日本の象徴とも言える剣道は、侍を思い起こす立ち居振る舞い、残心の美しさから海外でも人気があり、世界中で高く評価されている。より関心が強くなった私。体育館には、暑さを吹き飛ばすかのような大きな声で、力いっぱい竹刀を振る小さな剣士たちがいた。私もやってみたい…そう思ったのは、彼らの力強さが自分にはないものだったからだろう。最初は恥ずかしくて、蚊の鳴くような小さな声しか出せず、先生方を困らせた。しかし内心はますます剣道に夢中になっていた。私が通っている道場は、練習する場所が三カ所あり中には自転車とバスを乗り継いで一時間かかる所もある。バスに乗っていると、知らない人からも「剣道やっているの？重い防具持って大変やね。がんばりや」と、よく声をかけてもらう。周りからは大変そうに見えるのでしょ。帰り道、母に防具を持ってもらったこともあったが、日が経つにつれ、剣道のことがわかってくると気持ちも変化していった。自分の体を守ってくれる防具は、決して粗末にしてはならないと思うようになり、手入れをすることも覚えた。ある時、小さい子供が「あの大きな黒い袋には何が入っているの？」と母親に聞いていて、バスを降りるときに私がバイバイと手を振ると不思議そうに見送ってくれていた。そのとき私は、日本古来の武道のひとつ剣道を誇らしく思い、背筋を伸ばし、凜とした自分にニンマリしていた。そして「さあ今日も練習がんばるぞ」と気分一新、道場に急ぐ。そんな風に一生懸命練習していても、試合ではなかなか勝てない。真面目に稽古をしているつもりでも、心のどこかに甘えがあったように思う。「五年生で始めたからまだ初心者、勝てなくて当たり前、学校に剣道部がないから練習できない」など都合のいい理由をたくさん並べていたのだ。道場にいた中学生がそれぞれ私学に行き、ひとり残ってしまった私。何かできることはないかと思っていた時、先生が出稽古に行ってくい！と、中学生がいる道場に連絡を取ってくれ、今ではよく行かせていただいています。そこで多くの友達ができ、剣道談議に花を咲かせ、楽しみも増えた。先生は私たちに、稽古をしろ、努力をしろ、努力は人を裏切らないと教えてくれる。私はその言葉に共感し感謝している。礼儀と感謝の心、感謝の気持

ちを忘れずに、という言葉を使う人は多いけれど、感謝だけではだめだと思う。少しでも強くなる、という責任を感じてこそ、全てにこの感謝の二文字がついてくるのではないでしょう。私は剣道を通して多くのことを学んでいる。人の温かさ、仲間がいることの大切さ、勝利の喜び、負ける悔しさ、先輩への尊敬と後輩への思いやり。すばらしい剣道が、私の気持ちを変えてくれた。竹刀を振りおろすだけのメンがいかに難しいかということも知った。勝負は最後までわからない。一回でも多く勝てるよう、努力を続けていきたいと思う。何年経っても今の仲間を忘れることはないだろう。一緒に叱られ、励まし合い喜びを分かちあった時間は、何事にも変えられない大きな財産だから。剣道に出会えて本当に良かった。これからも切磋琢磨し、成長できるよう邁進していこうと思います。